

農政改革三法について

津山新星会議 倉持 照憲



質問→農地・水・環境保全向上対策について、どの様な判断、基準で対象地区の選定をしたのか。

答弁→国は単年度更新で採択する方向で、

この事業を推進していたが、四次総決定後に五ヵ年更新に変更する旨の通達があった。このためやむなく当初予算額での調整となり、カバー率(二十一%)が低くなった。ただし、次年度は追加要望が認められたため、中山間直接支払い地区を中心とする新たな追加採択を進め、面積の増を図っていきたいと考えている。

質問→品目横断的経営安定対策(農政局がとりまとめ)をどのような思いで受け止めているか。

答弁→本市の経営規模、農業経営の実態などから考えるとあまりにも高いハードルと言わざるを得ない。

地産地消は可能か

市民と歩む会 河本 英敏



質問→来年二学期からセンター方式で中学校と小学校の給食六千食を作ると聞く。今日まで行政と生産者団体、生産者が地産地消を合言葉に実績を重ねて

きた。しかし、今の体制で六千食に対応できるのか、その見通しは。三月議会で津山市の給食費未納を教育長自ら率直に認められた事は一歩前進、未納解消への取り組み状況は。

答弁→農林水産業への理解、食農教育面からも重要で関係者の理解の中、地産地消に努めている。しかし、学校給食はセンター方式が主流となることで地産地消には多くの努力が必要と予測される。二月の調査で、十七年度中の未納は小、中合わせ八十一人、九十五万四千五百八十八円。未納対策検討委員会は、要領を定め六月中に立ち上げを予定。

妊婦健診無料券、枚数増やすべき

公明党津山市議団 岡安 謙典



質問→厚生労働省から妊婦健診の公費負担が望ましいとの通達が出ている。市は二回の無料券を発行しているが、最低でも五回に増やすべきでは。

答弁→出産までに望ましい健診回数は一均十三、十四回程度になると考えられており、健康な妊娠・出産に最低限必要な回数は五回と言われている。現在、市では母子健康手帳に併せて二回分の妊婦健診無料券を発行している。発行枚数を増やすことにより、経済的不安を解消し積極的な受診が図られ、少子化対策の一助になる。必要性は十分認識しており、関係機関と調整しながら検討したい。

質問→子育て世帯向けの住宅支援について津山市としての取り組みは。

答弁→平成二十年以降に住宅マスタープランを新たに作成し、その中で検討。

本当に大丈夫？焼却炉の煙突

政津クラブ 秋山 幸則



質問→十九年間に及ぶ、ごみ処理センター問題で揺れ動いた綾部地区の苦悩は計り知れない。市が取得した用地から重金属が溶出しており安全対策を始め、

交渉経過、確認、約束事項は真摯に履行すべきである。小桁にある焼却炉の煙突の耐震診断を実施し、安全の確認をしているのか。

答弁→綾部地区の皆さまには長い間迷惑をかけてきたことをお詫びする。用地の保全、利活用等地元と十分な協議を行い、総合計画と調整を図りながら問題解決に当たりたい。特に地元要望に沿った形で進めていくことが、迷惑をおかけしてきた市の責任であると考えている。煙突の耐震診断は行っていないが安全診断調査はしている。補強工事は実施しており震度5までは大丈夫と思われる。